大宮神社社報

社報第四号
大宮神社
旭区大宮三の一の三七

春のおまつり
春季例祭と七社の末社祭典

春は新たな生命の息吹に満ちた季節。春爛漫のさる四月十五日に春季例祭がご斎行されました。春祭はその年の豊作を祈念するのが由来です。当社では献湯神事を執り行い、参拝者は巫女舞で湯釜から振りまかれる湯を浴びて、無病息災を祈りました。

二月から五月にかけてのこの時期には、七社の末社のお祭りが各祭礼日に執り行われます。中でも四月五日のいぼ大神祭には多くの氏子様が参列されました。「いぼさん」の名で親しまれている拝殿前の大きなモチの御神木。その木肌と自身の肌を交互に撫でると病が治るという病気平癒の神様です。毎日早朝から多くの参詣者が木肌を撫でるため、つるつるとした木肌のいぼさん。昔からの長く篤い信仰が伺えます。神様のお使いの巳さんがいらっしゃると伝えられるため、お祭りにはたくさんの玉子をお供えするのが慣わしです。

他は二月三日の節分祭と合わせて高良社祭、同二十七日に初巳祭として楠木社・北斗社祭典、翌二十八日に初午祭として稲荷社祭典を執り行いました。

今月は五月十日に春日社祭、同十五日に若宮社祭がご斎行されます。この春の佳き日に皆様どうぞご参拝ください。

四月十五日　春祭献湯神事

四月五日　いぼ大神祭

大宮神社の神さま　③主祭神・応神天皇

八幡神といわれる十五代応神天皇は、仲哀天皇の第四皇子で母は神功皇后です。平安末期の歴史書『扶桑略記』によると、六世紀欽明天皇の御代に大分県宇佐に八幡神が現れ「われは十五代応神天皇」と名乗ったと伝えられます。大分県の宇佐神宮は全国八幡神社の総本社です。

応神天皇は歴史に実在した最初の天皇ともいわれ、百済からの帰化人の受け入れや中国からの文化導入を積極的に進め、四十一年間の治世で日本文化の基礎を築いたといわれます。母の神功皇后が三韓征伐にて朝鮮半島へ出征した折には、胎内にいながら霊威を発揮したとされ胎中天皇とも称されました。

天応元年（七八一年）に朝廷から宇佐神宮に八幡大菩薩の神号が贈られ、鎮護国家・仏教守護の神となり全国の寺に勧請され八幡信仰は広がりました。また中世には武士の信仰も篤く、武の神としても広く信仰されました。（続）

応神天皇像　松平定信画

今年も満開の桜
お花見に訪れる人多く

今年も四月初旬に参道沿いの三本の桜が満開を迎えました。お宮参りや入学式を終えて記念撮影する参詣者、お散歩中に一休みの花見をするご年配の方など毎年心穏やかな風景です。来年も憩いのひと時にお立ち寄り下さい。

境内だより

昨秋大宮小学校四年生が境内を写生した作品が一月の校内作品展で展示されました。体育館の壁に貼り出された子供達の絵は、建築物や風景を細かに観察して丁寧に描かれていました。氏神様の境内で写生した思い出がいつまでも子供達の心に残りますように。

体育館での作品展

平岡優姫さんの作品

祈祷案内

初宮詣　七五三詣
家内安全　厄除
病気平癒
自動車祓
改築・転宅清祓
地鎮祭など各種
出張祭典
お電話でご予約下さい
☎０６（６９５１）２１９６